

2024年7月15日

Impact of Prior Percutaneous Coronary Intervention Lesions on Long-term Outcomes
after Coronary Artery Bypass Grafting: An Analysis over Two Decades

経皮的冠動脈形成術が冠動脈バイパス術の長期成績に与える影響に関する検討

◆研究の目的と概要◆

狭心症に対する冠動脈バイパス術のガイドラインの推奨はクラス I である。しかし治療の低侵襲性や良好な短期成績から経皮的冠動脈形成術（PCI）を施行する割合が多いのが本邦の現状である。

冠動脈バイパス術（CABG）の成績に PCI の既往がどのように影響するかについては未だ不明である。今回その短期・長期成績への影響を明らかにし、今後の治療戦略改善へ繋げることを目的とする。

◆対象となる患者さん◆

2000年1月から2024年1月までの間に、当院で冠動脈バイパス術を施行された方。

◆研究に使用される情報・試料◆

手術時年齢、性別、身長・体重、BMI、体表面積、喫煙歴、既往歴、これまでの治療経過、各種検査の結果、手術内容（手術時間、使用したグラフトの種類）、術後イベント、退院時の転帰、退院後の経過（外来での検査結果、再PCI日）

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2024年8月6日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
心臓血管外科 研究責任者 山下 剛生

E-mail： kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難である等の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明